

清川まちづくりセンターで移住者交流会開催

御殿茶屋スタッフが講師として参加者をサポート



昨年十二月十一日に第二回移住者交流会「歴史の里・清川で楽しむ そば打ち体験」が清川まちづくりセンターにて開催されました。

庄内町企画情報課・移住定住係が主催するこのイベントには、庄内町へ移住して五年以内の方・7組15名が参加、



講師を務めた御殿茶屋のスタッフ

お食事処 御殿茶屋のスタッフが講師を務めました。

最初は恐る恐るといった感じでしたが「混ぜて、こねて、伸ばして」と作業が進むにつれて、お子さんたちも初めてのそば打ち体験を楽しんでいました。



参加者からは「同じ移住者の皆さんと減多にできないそば打ちが体験でき、とても良かったです」等の感想が聞かれました。

自分たちで打ったそばを食べた後は交流タイムがあり、参加された皆さんは和気あいあいとした雰囲気の中で、今日の体験の感想や「庄内町の好きなお店」等語り合っていました。

清川歴史公園かわら版

回覧

発行所

○清川歴史公園
管理運営委員会

□庄内町
立川総合支所
立川地域振興係
TEL: 0234-56-2217

○清河八郎
大河ドラマ
誘致協議会

□庄内町教育委員会
社会教育課
TEL: 0234-43-0183

歴史の里のおもてなし ガイドの会より

「関所を通る人々」

令和四年度はコロナ感染の規制が緩和となったことで、お客様の数も戻ってきたと感じられた年でした。

歴史公園がオープンしてお客様とのふれあいから感じたことを記してみたいと思います。

「以前清川に住んでいた」「父母の生まれたところです」など清川にゆかりのある人々がよく訪ねてきてくれました。懐かしそうに昔話をする顔はしばしタイムスリップし、対応するこちらも嬉しくなることが度々でした。

又、関所がオープンして間もなくのある日、高齢の父と息子連れの方が船見番所を暫く見上げていました。その後、食事に寄ってくれたので話しかけてみたところ、息子が船見番所の石垣を工事した石工だとのこと。父に仕事を見てもらいたくて連れてこられたそう

です。とても嬉しそうに話してくれました。



友人同志ゆつくり食事をし、御殿林を散策してゆく方も多く、これから春になって多くのお客様が来所してくれることでしょう。

今年はどうな方々と出えるかな。昔も今も関所は人と人の交流の場のようなのです。

【抹茶】販売はじめました

昨年十一月より清川関所館内で抹茶の提供販売をスタートしました(平日限定)。三月以降も引き続きご利用お待ちしております。



維新の魁 清河八郎を 大河ドラマに!

「清河八郎」を主人公とする大河ドラマの実現を目指し、平成三〇年五月に「清河八郎大河ドラマ誘致協議会」を設立しました。現在、「清河八郎」を多くの人に知ってもらいたい!という願いのもと、周知活動を行っています。

清河八郎は旅が好きだった?
母親おもしろい八郎

〜百聞は一見に如かず〜

八郎は、聞いたことと見たことは違うと考え、自分の目で確かめようと様々な場所を訪れました。

嘉永元年(一八四八年)、一九歳のとき、叔父の弥兵衛一行と四国や大阪、京都を訪れ、嘉永三年(一八五〇年)には、有名な文人学者を訪ねながら九州を巡りました。また安政二年(一八五五年)三〜九月にかけて、母親を連れて、善光寺、伊勢、奈良、京都、宮島、岩国、天橋立、日光などめぐ

る大旅行をしました。

その様子は、紀行文「西遊草」(県指定文化財)に記されています。



紙芝居「清河八郎」

〜国事奔走(同志を集める)〜



八郎は追われる身になりましたが、京都・九州へ一日六〇キロも逃げ歩き全国を志士に「京都拳兵」と、「げき」をとばしました。一八六二年四月九州の島津久光公が一千の兵を連れ京に上るのを機に、一気に「攘夷討幕」ということで、志士を京に集めました。が失敗に終わりました。ついには同志達の斬り合い事件「寺田屋の変」が起ったのです。八郎の同志も多く倒れ計画はふりだしにもどってしまいました。

八郎は孝明天皇に「回天封事」と題した建白書を送り江戸に向かいました。また、政治総裁松平春嶽には「急務三策」という建白書を送りました。

「国家存亡に関わる時代に有能な人材を広く世に問うべきである」という内容のものでした。そのおかげで、政治犯の罪を許されて、八郎や同志は釈放されましたが八郎の妻お蓮は、すでに獄死した後だったのです。(次号へ)

紙芝居「清河八郎」

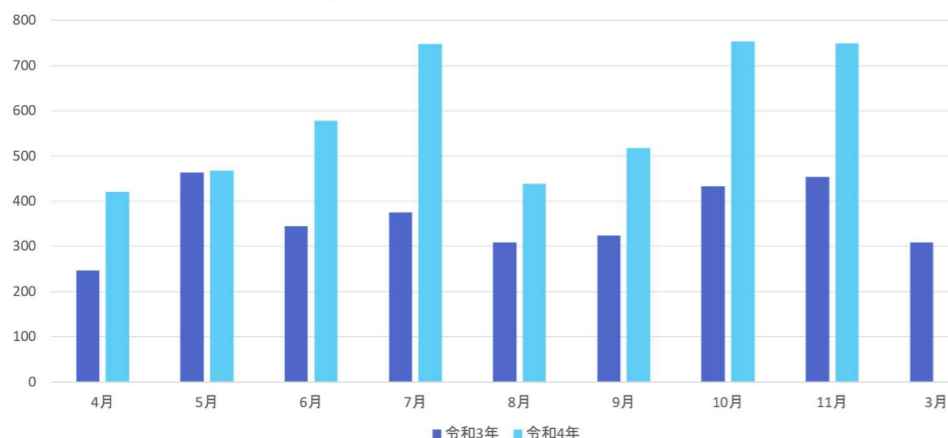
〜お蓮と八郎〜



お蓮(幼名はつ、遊女名高代(たかよ))は、一八三九年月山の麓、朝日村熊出の菅原医師の四女として生まれました。一〇歳で里子に出され、一七歳で鶴岡の「うなぎや」に売られた悲運な女の子でした。そこで八郎と出会いました。八郎は、親や親類の反対にあいまして、お蓮の力添えもあり、仙台で新居をかまえました。その後、江戸に出て、清河塾で八郎・弟の熊三郎は言うに及ばず同志の方々に骨身を惜しまず尽くしました。八郎が「尊皇攘夷」に奔走し、幕府に負われる身となるや、お蓮も弟の熊三郎などとともに牢屋に入れられ、いくら拷問にあっても八郎を守り、ついには庄内藩の御屋敷の牢舎に移されて毒殺されてしまいました。二四歳の若さでした。(次ページへつづく)

清川歴史公園のご利用状況(令和4年4月~11月)

清川歴史公園利用状況(来所者数)



令和四年四月から十一月まで清川歴史公園の来所者数は4,672名で、前年比158%となりました。

令和四年は「お食事処 御殿茶屋」のスタッフをはじめ地域の方々に協力いただき、六月・八月・十一月に「歴史講座」清川、

令和5年度企画展示「最上川舟運と清川」がテーマに



最上川を上る小鵜飼船 1945 (昭和20)年頃
「写真で見る清川の歴史」より

昨年十二月二十一日、清川まちづくりセンターにおいて「清川歴史公園管理運営委員会 展示品・企画展部会」が開催され、令和五年度は「最上川舟運と清川」をテーマに資料の収集・展示を行うことが協議されました。

計画では、前期(三月~七月前半)は「源義経と清川」、後期(七月後半~十一月)は「松尾芭蕉と清川」をサブテーマとすることとしています。

立谷沢川と最上川が合流する付近に位置する「清川」は、古くから最上川舟運で栄えた町です。



また源義経や松尾芭蕉らも、旅の途中にこの地を訪れた記録があります。(立川町の歴史と文化) 最上川と清川の関わりを感じ取っていただければと考え、本企画展を計画しています。

○これからも保存頑張ってます。いいです。

○おそば、ぜんざいおいしかったです。知人にも紹介したいと思います。

○季節を心ゆくまで楽しめました。

○地元のコーヒー、土産物があるのは魅力です。

アンケート内容 ● 回答・対応

○これからの保存頑張ってます。いいです。

○おそば、ぜんざいおいしかったです。知人にも紹介したいと思います。

○季節を心ゆくまで楽しめました。

○地元のコーヒー、土産物があるのは魅力です。

アンケート結果紹介

十一月六日には「関所まつり」を開催する等して多くのお客様にお越しいただく機会を設けてきました。

清川歴史公園は現在冬季休業中です。令和五年三月一日より営業再開いたします。皆様のお越しをお待ちしております。

清川歴史公園

三月一日(水)営業再開

冬季休所を経て清川歴史公園清川関所が三月一日より営業を再開します。本年度は上記記事のとおり「最上川舟運と清川」をテーマに企画展示を行います。



また「御食事処 御殿茶屋」は三月四日(土)より営業いたします。なお三月中は昨年同様、お雛様を清川関所に展示いたします。皆様のお越しをお待ちしております。

- 平日にも何回か開店してほしい。
- 土日祝以外に昼食ができる場所が欲しいです。
- 六月から二ヶ月に一回ですが、平日に台湾料理のキッチンカーに来てもらいました。また館内で平日限定・抹茶やコーヒー等の提供を始めました。
- おそばおいしいので、更に足を運ぶたいかなるイベントを!
- ひな祭りや七夕まつり、歴史講座、清川等の昼食付イベントを開催しました。
- お土産を増やして欲しい。
- オリジナルブランドコーヒーのコーヒバッグや大行列のクリアファイル等を新たに販売しました。
- 目立つ看板があったらいいなと思います。
- 清川駅前と清川まちづくりセンター前に設置している看板をリニューアルしました。



紙芝居『清河八郎』

〜虎尾の会(桜田門外の夜)〜 ⑩



一八六〇年三月三日の季節外れの大雪の日、六〇名の一行に守られた大老井伊直弼が、一八名の浪士らに襲撃をうけてあつげなく最後をとげ、幕府の力に地に落ちてしまいました。その一か月前、「虎尾の会」を山岡鉄舟・伊牟田尚平・松岡万(つもる)・益満休之助など一五名で結成しました。その目的は「外国人を日本から追い払い、天皇中心に日本をまとめよう」というものでした。このころ、ペリーの黒船が浦賀にやってきたり、井伊大老が天皇の許可も得ずに日米通商条約に調印したため、日用品の値段はうなぎ登りに上がり、幕府はアメリカのおどしに負け、言いなりになっていました。放つておいても幕府は内部からつぶれてしまう。しかし、このままでは民が道連れになると考えた八郎は、「民を救う国を治めることこそ第一」と行動をおこしました。(次ページへつづく)

紙芝居『清河八郎』

〜無礼者を斬る八郎〜 ⑪



一八六一年五月、八郎にとって運命的な事件が起こりました。水戸の志士と呼ばれて両国へ行った帰り道六尺棒を持った幕府の回し者に道をふさがれけんかになり「無礼者」と八郎の白刃は抜き打ちざまに男の首をはねました。胴より離れた頭はニメートルほど離れた瀬戸物屋のどんぶりにゴロンと転がり入りました。側にいた鉄舟もありの早業に気付かなかったと言います。相手が腰を抜かしている間に八郎たちはやみに消えました。その後、八郎は幕府の御尋ね者となり一年半におよぶ逃亡者生活となりましたが、逆に尊皇攘夷の同志集めにかけまわり、中国地方・九州を旅しました。虎尾の会もばらばらになり、妻のお蓮・弟の熊三郎・同志の池田・石坂ら八名が投獄されました。父母までが拷問を受け、さまざまな名目で多額な金品を奪われたのです。(次ページへつづく)